



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2023年
No.7
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

相互作用



事例

【事例の詳細】

以前より乳がん術後の薬物療法のため医療機関Aからアナストロゾール錠1mgを処方され、当薬局で調剤している患者が来局した。お薬手帳を確認したところ、最近医療機関Bより骨粗鬆症の治療としてラロキシフェン塩酸塩錠60mg「サワイ」が処方され、他の薬局で調剤されていることが判明した。薬剤師は、乳癌診療ガイドライン2022年版を参照し、医療機関Bの処方について医療機関Aの処方医に情報提供し協議した。医療機関Aの処方医の指示により、患者が医療機関Bを再受診した結果、骨粗鬆症治療薬のラロキシフェン塩酸塩錠60mg「サワイ」は中止になり、プラリア皮下注60mgシリンジに変更となった。

【推定される要因】

選択的エストロゲン受容体モジュレーター (SERM)の併用によるアロマターゼ阻害薬の治療効果への影響は、添付文書に記載されていない内容である。

【薬局での取り組み】

患者のお薬手帳に、治療中の併用薬に対する注意事項を当薬局で記入し、他の医療提供施設と情報共有する取り組みを行う。



その他の情報

<参考>乳癌診療ガイドライン 2022年版* (一部抜粋)

治療編

薬物療法

3. その他 (特殊病態、副作用対策など)

BQ11 アロマターゼ阻害薬使用患者における骨粗鬆症の予防・治療に骨吸収抑制薬 (ビスホスホネート、デノスマブ) は推奨されるか?

解説

3) その他

選択的エストロゲン受容体モジュレーター (SERM) であるラロキシフェンは閉経後女性における骨粗鬆症の治療薬として挙げられる。しかし、ATAC試験において、同様のSERMであるタモキシフェンとアナストロゾールの併用で有害事象の増加と乳癌再発抑制効果阻害の可能性が示されており、アロマターゼ阻害薬使用時のラロキシフェン併用は避けるのが妥当である。

*日本乳癌学会 編. https://jbcx.srv.jp/guideline/2022/y_index/bq11/ (参照2023年7月7日)



事例のポイント

- ラロキシフェン塩酸塩錠は添付文書上、アナストロゾール錠と併用禁忌・併用注意ではないが、本事例は、薬剤師が診療ガイドラインを参照して情報提供を行った事例である。薬剤師は患者の併用薬の確認を行い、薬剤の相互作用や重複投与などのリスクを最小限に抑える役割を担っている。
- 2021年8月より「専門医療機関連携薬局」と「地域連携薬局」という2つの認定制度が開始された。薬局及び薬剤師は、専門性の高い情報発信や研修会を通じて地域の医療機関や薬局と連携し、地域包括ケアシステムの一員として患者の安全な薬物治療に貢献することが期待されている。
- アロマターゼ阻害薬を服用中の患者は骨量の低下が懸念されるため、他院で骨粗鬆症の指摘を受ける可能性がある。骨粗鬆症の薬物治療を開始する際には、乳がんの治療を受けている医療機関の主治医や薬剤師に相談するよう、あらかじめ患者に説明しておくことは薬剤師の重要な役割のひとつである。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話: 03-5217-0281 (直通) FAX: 03-5217-0253 (直通)
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhrc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。